事例No.	2918
公表年度	R5
団体の属性	一般市
団体名	北海道苫小牧市

事例区分	DX

タグ	・ICT ・公共施設活用 ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	ICT

事例内容・タイトル

(2) 光ファイバの老朽化への対応

出典

活力ある地域社会の実現に向けた情報通信基盤と利活用の在り方に関する懇談会（第1回）

(2) 光ファイバの老朽化への対応

○ 耐用年数を過ぎた光ファイバの代替となる情報通信インフラの維持・更新が課題となっている地域が存在。
○ 地上デジタル放送の受信方法の一つである「辺地共聴施設」では、設備の老朽化の問題を抱えているものも多い。

光ファイバの老朽化状況

苫小牧市での対応例

- 苫小牧市では、平成13年に総務省「地域イントラネット基盤整備事業」により、公設で市内公共施設に光ファイバを敷設。
- 公設民営等で整備した光ファイバの耐用年数（約15～20年）超過（利用期間20年を経過）を受け、補助金で地域広帯域移動無線アクセスシステムを導入。

第３期（２０２３年度）開設予定地域ＢＷＡ基地局



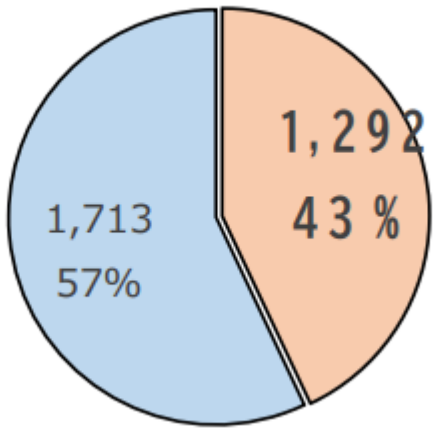
【出典】苫小牧市 苫小牧市地域情報化計画令和2年度（2020年度）～令和6年度（2024年度）
（https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/files/00007100/00007123/20200402192156.pdf）
を基に作成

辺地共聴施設の老朽化状況

辺地共聴施設の現状等に係るアンケート調査結果（概要）

- 令和4年末から、全国の地方公共団体を通じて住民組合が運営する辺地共聴施設の組合代表者等に対してアンケート調査を実施。3,005件の回答があり、結果を分析。
- 課題として設備の老朽化”を挙げている住民組合の割合は43%。

○ “設備の老朽化”を挙げている回答の割合は43％



【出典】総務省東海総合通信局 東海地域通信インフラ整備推進協議会（第3回会合）
資料4[辺地共聴施設について」
（https://www.soumu.go.jp/main_content/000902751.pdf）を基に作成